

ます。挨拶に続いて天気の話とか昨日のスポーツの話などを続ければいっそう英語に磨きがかかります。挨拶もなるべく相手の目を見ながら言います。

《微笑みは見る人を安心させます。私はあなたの敵じゃありません、というサインです。これは万国共通のサインですので、たとえ言葉が通じなくても使えます。最強の身体言語です。言葉による挨拶をする時には必ず微笑みを添えましょう。人と話すときでもしかめっ面して話すのと微笑みながら話すのとでは印象が違います。友好的な対人関係を保ちながら議論するときも微笑みが役立ちます。たとえ英語で何も話すことがなくても、微笑むだけで気持ちは伝わります。》

昼間の挨拶は「Hi, Masa」という具合に「ハイ＋名前」で十分です。その日初めて会う知り合いには必ず「ハイ＋名前」で声を掛けます。同じ日に2度声を掛けてもかまいません。あなたの存在を認めていますという合図ですから、繰り返し認めても相手は悪い気はしません。やはり名前を呼ぶことで覚えるという効果があります。管理職ほど頻繁に人の名前を呼んで覚える努力をします。「Good afternoon」や「Good evening」なども公式会合など改まった席では使います。

帰りの挨拶は「See you tomorrow」とか「Have a good evening」などになります。相手の名前をこれに追加すれば完璧です。さらに「Good night」という言い方もあり、夜退社するときに使えます。これは「おやすみ」ではなく「さよなら」という意味で、ちょうど「Good morning」の反対の挨拶です。返事も「Good night」となります。初めて会社で同僚にこれを言われた時は筆者もびっくりしました。

相手の存在を認めるのが挨拶なら、その逆は何でしょう。無視ですね。無視するということは相手の存在を認めないということです。これはどこの国でも無礼な行為です。外国を旅行した時もしその国の言葉が分からなくても、日本語でもいいから「こんにちは」と挨拶をすれば相手の存在を認めたことが通じます。いろいろな国の人と仕事をする人はぜひ挨拶をまず身につけて下さい。これは会話の基本です。相手の目を見て「Good morning」や「How are you?」を言うだけですから簡単ですね。先手必勝なので自分から言うようにしましょう。

《日本語の「すみません」には文脈によりいろいろな意味があるので、英語では使い分けが必要です。「Excuse me」とか「Sorry」とか「Hello」などが思い浮かびます。相手が邪